

## 私の学生時代



副学長 黒澤 隆夫

私が大学に入学した年は昭和44年である。ベトナム反戦運動と学生運動が華やかな時期であり、「ああ…、あの年か」と思う方がおられると思う。大学紛争のうねりが全国的に頂点に達した時でもあり、その象徴的事件である安田講堂事件が起こった年である。その結果、東大の入学試験が中止となり、他大学にも大きく影響が出た年であった。そのような中、私は北海道大学理類に入学したが、学生運動が吹き荒れ、なんとなく入学式はあったような気がする(今考えてもあったかわからない)、4月から講義が全く行われなかった。何時、講義が開始されるか全く見通しが立たず、私は田舎から出てき



台湾、スイカ屋の前で

たばかりで周りの雰囲気にもついていけず、なんとなく焦りを覚えていたように思える。

当時の私の趣味は、「蝶の収集」であった。ある日、突然、何も考えずにこの機会を利用して(今でしよう!ということ)台湾へと採集旅行へと旅立つこととした。善は急げと、とにかく私にとっては初の海外旅行でもあり、パスポートを取って早く(アルバイトをしてためていたお金で何とかなったような気がする)ということとで4月半ばに日本を旅立った。現地でも何も考えずに採集に身を投じることができ、本当に心からリフレッシュできた時間であった。

しかしながら、因果応報、帰国してみると既に一部の講義が再開されており、単位を取ることができず、留年が待ち受けていた。当時何とか試験を受けさせてほしいと駆けずり回った。化学の片山明石教授ところでお願いしたときに、「先生は頭が固い」といったら、「私の名前は“メイセキ”です」といわれて、「うまいことかえすな」と妙に納得して、じたばたするのをやめた



台湾 梨山 後方は次高山

覚えがある。

学部移行時の成績は、700番ぐらいだったと思うが、何とか薬学部に移行できた(希望学部には移行することはできなかった)。薬学部に移行後は米光先生が主宰する植物薬品化学講座で札幌オリンピックを見ながら、真面目に有機化学の勉強をした。当時私に直接教えてくれた先生は、及川先生。残念ながら、若くして亡くなられてしまったのだが、将来を嘱望された天才ともいべき先生で、多くのことを習い、私にとっては常に目標となる先生であった。

修士課程修了後、本学に赴任する藤間貞彦先生について薬学部薬品分析化学講座の助手として昭和51年に赴任し、それ以来、38年間本学の歩みに沿って、何とかここまでやってこることができ、どうやら定年を本学でむかえることになりそうだ。

# 私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は黒澤隆夫副学長と石川秀也教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

## 私の学生時代



看護福祉学部  
臨床福祉学科

教授 石川 秀也

ちょうど10年前に、本欄に同じタイトルで拙稿をご紹介いただいたことがあります。読み返してみますと、(自分でいうのもなんですが)正直者の私らしく、あまり良い学生ではなかったことを素直に告白しておりました。

その頃、一生懸命に取り組んでいたのはアルバイトでありました。40年以上前のことですが、男子アルバイトの賃金が良かったのは、家庭教師か肉体労働系でありました。私のような者に家庭教師が務まるはずがなく、自然と肉体労働系の仕事を選択いたしました。いろいろな仕事をさせていただきまして、いわゆる土木作業もやりましたし、電気工事も経験しました。電気工事といっても建物内ではなく、たとえば宮の森ジャンプ競技場の建設に際して

は、飛型審判員がいるジャッジタワーなどと、ジャンプ台の最高地点とを直径5~6cmもあるケーブルでつなぐ作業を経験しました。このケーブル、長さはどのくらいあるのか分かりませんが、とにかく2m以上もある巨大リールに巻きつけられており、そのリールを5~6人で斜面を押し上げていくといった大変な作業でした。

そんな中で、大学2年生から卒業時まで、もともと長く続きましたのが「塗装業」でした。これも“ペンキ塗り”といったことではなく、大きなビルの吹付け塗装が主な仕事でありました。足場(ビケと呼ばれます)に上り、まず塗装しない窓や入口などの部分の養生(ビニールをガムテープで貼り付ける作業です)、下地塗り、本塗装といった手順を踏みます。その都度、塗料を運んだり、コンプレッサーの調整をしたりといった仕事でしたが、私にとっては楽しい作業でありました。ただ、高所での作業ですので、危険であったことは間違いありません。実

際に、一緒に働いていた人が足場を3段くらい落ちてしまい、命には別条ありませんでしたが、ケガを負ってしまった人もいました。アルバイトといっても、私は長く続けさせていただきましましたので、職人さんたちと同じような仕事をさせていただきましたし、車を1台預けられ、運転手もしました。なんと、その会社(下請けの小さな会社です)の就業規則の作成を命じられたこともあります。

本学の学生さんも、いろいろなアルバイトをなさっていますね。アルバイトは、単にお金を稼ぐということだけでなく、広い意味での人生勉強にもなると思います。学業や健康に影響しない範囲で、素晴らしい経験をなさってください。